

「第4回定時総会および第18回理事会」開催される

(一社)日本航空宇宙工業会は5月25日(於:ホテルオークラ東京)第4回定時総会および第18回理事会を開催した。

同日のスケジュールは以下の通り。

午後4時20分～4時50分	会長記者会見(一般紙/専門紙)
午後5時00分～5時45分	第4回定時総会
午後5時50分～5時55分	第18回理事会
午後6時00分～7時30分	懇親パーティー

1. 第4回定時総会

第4回定時総会には正会員86社中の61社の出席を得た。(他、委任状25社)

総会は、釜会長の挨拶(次葉)後、同会長により議事進行がとり進められ、全議案が滞りなく承認可決された。

第4回定時総会の議事内容は次のとおり。(議事要旨は「お知らせ」参照)

- 第1号議案 平成26年度決算の承認について
- 第2号議案 平成27年度会費の承認について
- 第3号議案 理事の補欠選任について



総会会場



釜 和明 議長
(株式会社IHI 取締役会長)

2. 第18回理事会

総会に引き続き開催された理事会は、同会長により議事進行がとり進められ、議案が滞りなく承認可決された。

第18回理事会の議事内容は次のとおり。(議事要旨は「お知らせ」参照)

- 議案 常務理事の選任について

第4回定時総会釜会長所見

日本航空宇宙工業会第4回定時総会に際して、会長として、所見の一端を述べさせていただきます。

所見1：はじめに

航空宇宙産業におきましては将来の発展に向け、さまざまなプロジェクトが進展しております。特に航空機分野においては、平成21年度に1兆円規模で推移していた生産額が緩やかに回復し、平成25年度以降大きな伸びを示し、平成26年度は1.6兆円を上回る大幅な増加となりました。また、宇宙分野では「宇宙基本計画」が改訂され、10年間で5兆円の事業規模の計画が示されました。このように航空宇宙産業は、今、大きな飛躍の時期を迎えていると言えます。

所見2：民間航空機分野

- (1) 民間航空機分野で、日本はこれまで国際共同開発旅客機ボーイング767、777、787に参画し、順調に生産高を伸ばしております。そして昨年6月にはボーイング社が開発を進めている777Xプログラムにおいても主要構造部位の約21%に日本企業が日本航空機開発協会とともに参画することが合意されております。
- (2) 国産リージョナルジェット機MRJにつきましては、昨年10月のロールアウトで、その美しい機体が世界中に発信されました。2017年には初号機が納入される計画です。MRJの開発が着実に前進し、YS-11以来半世紀ぶりの国産旅客機を世界に提供するとともに、完成機ビジネスの成功と、今後の更なる発展を期待いたします。
- (3) また、ホンダジェットが、先月国内で初公開されました。米国での製造ではありますが、「本田宗一郎さんの夢」であったというこのビジネスジェットが成功することをお祈りいたします。
- (4) 民間航空エンジン分野においては、V2500の生産に加え、ゼネラル・エレクトリック社 GEnxエンジンやロールス・ロイス社 Trent1000エンジンの共同生産への参画により国内企業の生産額は拡大しております。また、ボーイング777X用エンジンとしてゼネラル・エレクトリック社が開発を進めているGE9Xのプログラムに日本企業が参画することが決まっております。更に、エアバスA320neoに搭載される優れた燃費効率と高い環境性能を持つ次世代エンジンPW1100G-JMについて、プラット&ホイットニー社、日本航空機エンジン協会、MTU社の3者による国際共同開発事業が既にスタートしており、昨年末に型式承認が取得されました。今後、このエンジンが搭載される小型機分野の需要が、特に伸びると予測されており、大いに期待いたします。

所見3：防衛分野

- (1) 防衛関連分野に目を転じますと、グローバルな安全保障環境は、緊迫した状態が継

続しております。このような状況の中、日本は「世界の平和と安定及び繁栄の確保に積極的に寄与する」という方針のもと、昨年4月には防衛装備移転三原則が閣議決定され、6月には防衛省より防衛生産・技術基盤戦略が公表されました。そして先月、日米外務・防衛担当閣僚の安全保障協議委員会（2プラス2）で日米関係をより強化する方向が示されました。防衛産業としても、国の方針にそって、安全保障に寄与するよう努めてまいります。

- (2) 主な防衛事業として、次期戦闘機F-35Aは当初は完成機輸入で事業が始まりましたが、その後については国内企業が製造に参画する形態になっており、国内基盤の一翼となります。また、F-35のアジア太平洋地域における整備拠点を日本に設置するという昨年末の米国政府による公表は、更なる国内基盤の強化につながるものと期待いたします。

一方、開発事業では先進技術実証機によって最先端技術による機体、エンジンなどのシステムと運用上の有効性が検証され、将来戦闘機の検討に活かされることが期待されます。

戦闘機以外の分野では、P-1固定翼哨戒機が2013年より運用開始されており、C-2輸送機も量産機製造フェーズに入っております。また、US-2救難飛行艇の海外輸出についても検討されており、これらの事業が、防衛航空機に関する基盤維持に資するものと期待いたします。

- (3) 日本の航空機産業は、防衛で培った生産・技術基盤をもって発展してまいりました。今年度は防衛省に新たな防衛取得関連組織として「防衛装備庁（仮称）」の設立が計画されており、国内生産・技術基盤はもちろんのこと、防衛装備品の海外移転についても検討が進められるものと思います。また、調達効率化として、航空機など高額な装備品の調達において長期契約を導入して一括調達することが計画しております。企業にとって将来事業への予見性が高まることで、設備投資や人員配置の安定化・効率化など、生産体制の維持・構築を計画的に進める環境が整うものとして、歓迎いたします。

所見4：宇宙分野

- (1) 宇宙分野としては、新しい「宇宙基本計画」が策定され、今後20年間を見据えた10年間の長期的計画が具体的に示されました。この中では宇宙政策の目標として①宇宙安全保障の確保、②民生分野における宇宙利用推進、③産業・科学技術基盤の維持・強化が明示されており、産業界としては計画性をもって事業が推進できるものとして大いに期待しております。また計画を具体化した工程表の着実な実行が宇宙産業の基盤強化につながるものであり、予算規模の拡大と併せて期待いたします。
- (2) また、新しい「宇宙基本計画」では特に宇宙安全保障に関連して、増大するスペースデブリの脅威に対して国際間の連携のもと除去技術に取り組むことや、測位、通信、

情報収集の宇宙システムを強化すること、さらには米国との協力により宇宙や海洋の状況監視の能力を高めることが提唱されております。新たな技術開発に向けて宇宙産業の活動が広がるものと期待しております。

- (3) ロケット打上げ分野では、H-IIAは3月26日の「情報収集衛星光学5号」を上げた28号機をもって22回連続成功しており96.5%の高い成功率です。H-IIBを合わせた成功率は更に高く96.9%に達しております。今後も打上げ成功実績を積み重ねるとともに、コスト競争力を高めて、我が国の商業用衛星打上げ・輸送サービスが国際市場において受注を拡大していくことを期待しております。そして、今年度からJAXAがH-IIの後継となる新型基幹ロケット「H-III（仮称）」の開発に着手しております。高い国際競争力をもつ新型ロケットの開発、および低コスト化と大幅な自動化を取り入れた最新の小型固体ロケット「イプシロンロケット」をもって、日本の宇宙産業が拡大・発展するものと期待いたします。
- (4) 衛星分野におきましても、昨年2月にはトルコから受注した通信衛星1機を打上げ、引き渡しするなど、国内の衛星製造企業は世界の衛星需要拡大を視野に入れて衛星製造能力の増強を図るとともに、官民一体となって新興国等への海外市場の開拓に邁進しております。海外市場における国産衛星の受注が拡大することを期待します。また、国内の衛星については、新しい宇宙基本計画で、日本版全地球測位システム（GPS）構築のための準天頂衛星を現在の4機体制から7機体制にする計画が示されております。今後も計画にそって実施され、安定した政府調達を期待いたします。そして、昨年12月に打上げ成功しました「はやぶさ2」は、予定していた1回目の軌道修正に成功したとの発表がありました。6年後の帰還と成果が楽しみです。

所見5：まとめ

航空宇宙産業は幅広く技術革新を進め、経済を活性化する先端技術産業であり、安全保障にも直結している重要な産業であります。当工業会は、今後も我が国航空宇宙産業発展のための各種事業を推進してまいります。

そして、来年の10月には「2016年国際航空宇宙展」を東京ビッグサイトで開催いたします。日本の航空宇宙産業の情報を発信するとともに、世界的なビジネスを展開する場として産業界に有効にご活用頂けるよう、準備してまいります。

皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます、会長としての挨拶とさせていただきます。

3. 定例会長記者会見

（一社）日本航空宇宙工業会は第4回定時総会に先立ち、一般紙・専門紙への定例記者会見を開催した。釜会長の挨拶（前掲「会長所見」）の後、活発な質疑が行われた。

[時間：午後4時20分～4時50分、於「アトランティックルーム」]

(1) 出席者

新聞社・報道機関：日本経済新聞社、日刊工業新聞社、航空防衛通信社、航空新聞、日刊航空、
 ジャパン・ミリタリー・レビュー、航空情報、文林堂（8社+ジャーナリスト、計14名）

当工業会出席者：釜会長

[事務局] 今清水専務理事、秦常務理事、高辻常務理事他関係者

(2) 配布資料 会長所見（第4回定時総会）、平成26年度航空機生産額（速報値）、平成26年度宇宙機器産業の売上高見込み



記者会見会場



釜会長

4. 懇親パーティー

（一社）日本航空宇宙工業会は第4回定時総会終了後、恒例の懇親パーティーを開催した。当日は、関係官庁、学識者、在日外国企業、報道関係者並びに会員企業等、幅広い方面から約670名の方々にご参集をいただいた。

パーティーは冒頭、釜会長の挨拶に引き続き、ご来賓の方々（下記）よりご祝辞をいただいた後、当工業会永野副会長による乾杯の音頭によって始められ、和やかに懇談に入った。その後、ご到着の中谷防衛大臣よりご挨拶をいただいた。

ご 来 賓



関 芳弘
 経済産業大臣政務官



左藤 章
 防衛副大臣



平 将明
 内閣府副大臣
 (宇宙政策担当)



藤井 基之
 文部科学副大臣



永野副会長の乾杯の発声により
パーティー開始



中谷 元
防衛大臣

SJAC総会懇親パーティー 釜新会長挨拶

一般社団法人日本航空宇宙工業会会長の釜でございます。

1. 本日はご多用中にもかかわらず、関係官庁の政務三役・幹部の皆様方を始め、関係各位多数のご臨席を賜り、誠にありがとうございます。また皆さまには、日頃より我が国航空宇宙産業の発展について、ご理解と格別のご高配を賜り、深く感謝申し上げます。
2. さて、私ども航空宇宙産業は、先端技術産業として、技術立国である我が国の技術をリードし、安全保障にも直結する、重要な産業であります。世界各国は、航空宇宙産業を戦略産業の一つと位置づけ、積極的な取り組みを進めており、内外の市場では厳しい競争が展開されています。こうした環境の中で、ここ一年を振り返りますと、さまざまなプロジェクトが進展しました。
3. 民間航空機分野では、昨年6月には、日本企業が777X主要構造部品の約21%を製造する合意がなされました。また完成機ビジネスとして期待されるMRJですが、昨年10月のロールアウトを経て、今年9～10月期の初飛行が予定されています。また、ホンダジェットも先月、国内で初公開されました。
国際共同開発プログラムでは、A320neo向けエンジンであるPW1100G-JMの型式承認がおり、また777X向けエンジンのGE9Xへの参画も決まりました。工業会としては、民間機分野での一層の拡大を目指し、装備品分野での事業機会の拡大や製造技術者の人材育成などに取り組んでまいります。

4. 防衛分野では、昨年4月の「防衛装備移転三原則」の閣議決定、6月の「防衛生産・技術基盤戦略」の発表に加え、先月には新たな「日米防衛協力のための指針」が発表されるなど、防衛装備の基盤に関連する重要な政策が大きな進展をみました。装備では、次期戦闘機F-35Aのアジア太平洋地域の整備拠点を日本に設置することが発表されました。また、US-2救難大型飛行艇の海外輸出の検討も進んでおります。工業会といたしましては、国の安全保障政策へ協力するため、引き続き、国際的な防衛産業対話などを進めることにより、最新技術の獲得や防衛生産・技術基盤の維持・強化に努めてまいりたいと考えております。
5. 宇宙分野では、今年3月の「情報収集衛星光学5号」の打上げにより、H-IIAロケットは22回連続の成功をおさめました。また、1月には新たな「宇宙基本計画」が策定され、今後20年間を見据えた長期的・具体的な整備計画が示されました。工業会としては、引き続き、新たな「宇宙基本計画」に示された具体的な目標の達成に協力するとともに、積極的な国際市場への参入に努めてまいります。
6. 来年10月には、国際航空宇宙展（JA2016）を東京ビッグサイトと共催で開催いたします。これは、日本の航空宇宙に関する産業の実情や国の政策を幅広く発信する場であるとともに、世界の主要メーカー、研究機関、地域クラスターなどが一堂に会し、新たなビジネスチャンスの創出を図るものがございます。工業会としては、その成功に向け、準備に万全を期してまいります。
7. 以上、当工業会としては、航空宇宙産業の更なる発展に向け、諸事業を推進してまいります。本日の皆様のご来駕に改めて感謝の意を表するとともに、皆様方には、一層のご指導、ご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



懇親パーティーにて
安藤副会長、中谷副会長、中谷防衛大臣、釜会長、永野副会長